

第4期地理空間情報活用推進基本計画の概要 (R4年度～R8年度)

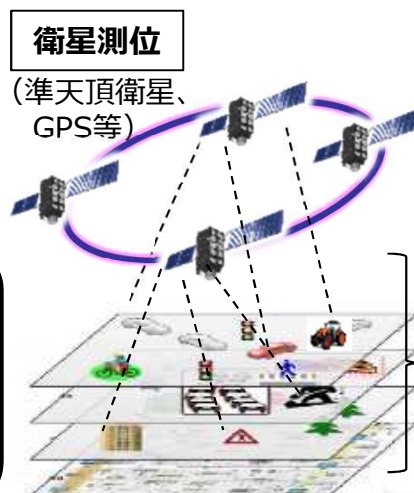
- **地理空間情報活用推進基本法** (平成19年)に基づき、**地理空間情報活用推進基本計画**(計画期間5年)を策定。
- **地理空間情報**(=「いつ・どこで・何が・どのような状態か」といった位置と時間、関連情報から形成される情報)の活用の推進に関する施策の基本的な方向等を定めるもの。

第3期の主な成果

- ・準天頂衛星4機体制確立
→衛星安否確認サービスの構築 等
- ・G空間情報センター本格稼働
- ・自動運転車(レベル3)・農機の自動走行システムの市販開始

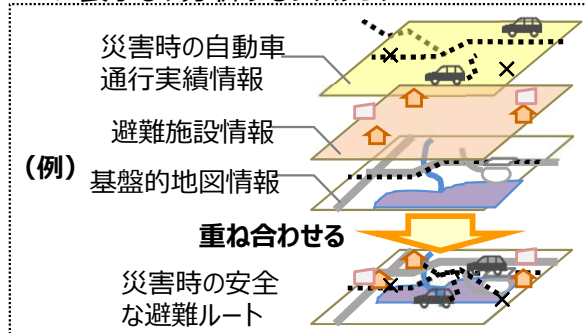
社会情勢等の変化

- ・地球温暖化による気候変動の進展
- ・自然災害の激甚化・頻発化
- ・新型コロナウイルスによる生活様式の変容・デジタル化の加速
- ・技術の飛躍的進化



地理情報システム (GIS)

GIS : Geographic Information System
…位置に関するデータを電子地図上に視覚的に表示し、分析するシステム



目指すべき姿

誰もがいつでもどこでも自分らしい生き方を享受できる社会の実現に向けて、
地理空間情報のポテンシャルを最大限に活用した多様なサービスの創出・提供の実現を目指す

全体指針等

地理空間情報活用の新たな展開

- Dynamic(動的)・Realtime・Open・Connectedな進化したデータを未来志向で活用
- 社会課題を解決する次世代インフラとして、発信・展開

計画の効果的な推進

デジタル庁が主導する社会全体のDX推進の取組との連携、データ品質確保のための多様な主体による連携、技術進展に伴う国の安全への配慮 等

地理空間情報活用ビジネスの持続的発展スパイラル構築

- 新産業・新サービスの創出のため、産学官の多様なプレイヤーの協業等を促進
- 実証段階から継続性を有するビジネスへの発展スパイラルを構築

地理空間情報活用人材の育成、交流支援

- 異分野を巻き込んだ多様な人材の交流、事業化を推進するコミュニティの形成等を促進
- 進化した地理空間情報を活用する人材を育成

具体的施策

(1) 自然災害・環境問題への対応

(4) 地理空間情報基盤の継続的な整備・充実

(2) 産業・経済の活性化

(5) 地理空間情報の整備と活用を促進するための総合的な施策

(3) 豊かな暮らしの実現

(6) 重点的に取り組むべき施策 (シンボルプロジェクト) …防災・減災、気候変動 (地球観測衛星)、スマート農業、i-Construction、衛星データ利活用、自動運転、空間ID (3次元空間情報基盤)、3D都市モデル、位置情報共通基盤 (国家座標の推進)、準天頂衛星システム (7機体制確立)

※工程表、KPIにより進捗を管理



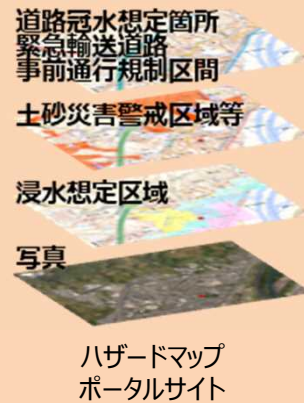
具体的施策（1）自然災害への対応、産業・経済の活性化、豊かな暮らしの実現

- 各分野における地理空間情報の活用推進施策として、土地に関する多様な情報の提供や情報基盤の整備・充実に関する取組を多数位置づけ。

自然災害への対応

土地のハザード情報の整備・提供

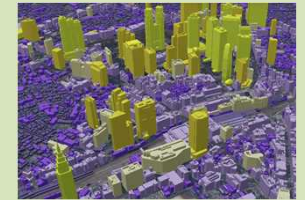
- 災害リスク情報の提供を行うハザードマップポータルサイトの情報を拡充 [浸水想定区域図：1,548（令和4年1月）→約17,000（令和8年度）]
- 災害リスク情報のGISデータによる提供を進めるとともに、土地の改変状況や過去の災害履歴等を地理空間情報として整備・提供
- 全国活断層帯情報や地形分類データ等の防災地理情報の整備範囲を拡大 [活断層図整備率：72%（令和4年1月）→84%（令和7年度）]



豊かな暮らしの実現

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の推進 (Project PLATEAU (プラトー))

- まちづくりのDXにおけるデジタル・インフラとなる3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を行うプロジェクトPLATEAUを推進 [3D都市モデルの整備・オープンデータ化を100都市程度、30件程度の先進的なユースケースの開発（令和4年度）]



3D都市モデル (新宿駅周辺)

産業・経済の活性化

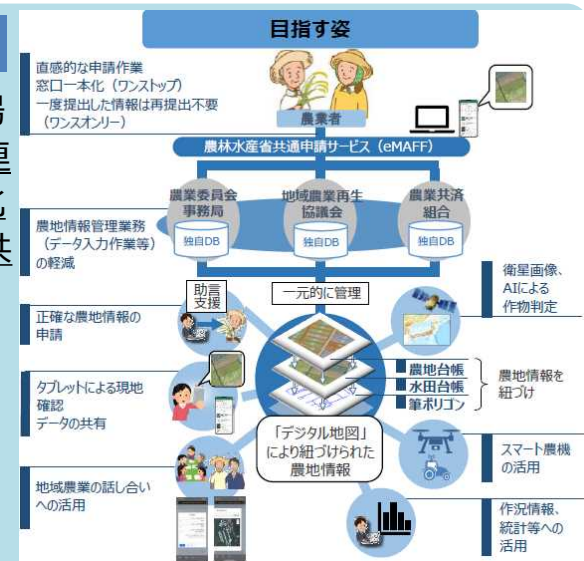
不動産市場情報の整備の推進

- 不動産取引価格や防災情報等の土地・不動産に関する情報へのスムーズなアクセスを可能とする土地・不動産情報ライブラリの構築・運用（令和6年度）
- 不動産の共通コードとしての「不動産ID」に係るルール運用等により、不動産関連情報の連携・蓄積・活用を促進（令和4年度から順次開始）



農地情報の整備

- デジタル地図の活用により、現場の農地情報を統合し、農地関連業務の効率化・省力化・高度化を図る「農林水産省地理情報共通管理システム (eMAFF地図)」の開発を進め、農地関連行政手続のオンライン利用率を60%まで向上（令和7年度）





具体的施策（2）地理空間情報基盤の継続的な整備・充実

- 基礎的な地理空間情報の整備・更新・高度化を着実に実施するとともに、多様な利活用ニーズに対応したウェブ地図等による提供やGISの整備を推進。
- 地理空間情報の相互接続やデータのオープン化により、流通・利活用を推進

基盤となる地理空間情報の整備・推進・高度化及びGISの整備推進

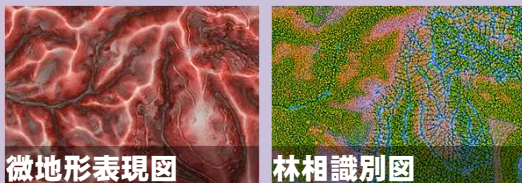
地籍整備の推進

- 国土の実態を適正に把握するため、地籍整備の推進（※）を着実に実施
〔対象地域全体での地籍調査進捗率：52%（令和2年度末）→57%（令和11年度）〕
- （※）第7次国土調査事業十箇年計画（令和2年5月26日閣議決定）に基づき、新たな調査手続・調査手法の導入等を推進し、地籍調査の円滑化・迅速化を図る。

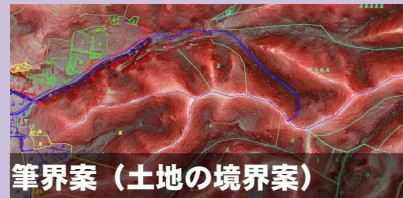
○リモートセンシングデータ活用手法



- リモートセンシングデータとは、航空機など離れた位置から遠隔のセンサーにより取得されたデータ。
- 航空機からの撮影や航空レーザ測量等により広範囲の情報を迅速に測定し、取得したデータから、空中写真（オルソ画像）や微地形表現図、林相識別図等を作成し地籍調査に活用。



航空レーザ測量成果から作成された資料等



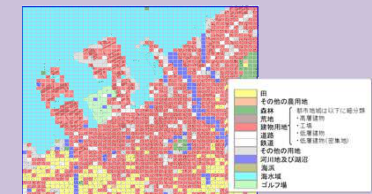
リモートセンシングデータを活用して作成した筆界案を集会所等で確認

地理空間情報の整備・高度化

- ベース・レジストリとして指定された電子国土基本図をはじめとする信頼性の高い高鮮度な地理空間情報を持続的に提供。次世代の標準形式であるベクトルタイル形式での提供を開始。
- 3次元地図の整備に活用可能な3次元点群データの整備を実施〔約11万km²（令和7年度）〕
- 土地利用、森林資源、統計情報等の経済社会に関する地理空間情報、土壌等の環境に関する地理空間情報などを、ウェブ地図技術等により把握・提供



電子国土基本図



国土数値情報（土地利用）

地理空間情報の流通および利活用の推進

G空間情報センターを中核とした地理空間情報の流通・利活用の推進

- 地図情報、画像情報、統計情報などの地理空間情報を容易に検索・入手・利用できるG空間情報センターの一層の活用促進を図るため、各種データプラットフォームとのAPI等による連携を進める。

[5件（令和4年1月）→10件（令和8年度）]





【参考】地理空間情報活用推進基本計画 シンボルプロジェクト

- 地理空間情報活用推進基本計画では、世界最高水準のG空間社会の実現に向けて重点的に取り組むべき10の施策を「シンボルプロジェクト」と位置付けている。

自然災害・環境問題への対応

①統合型G空間防災・減災システムの構築の推進

- ・地理空間情報を高度に活用した防災・減災に資する技術「G空間防災技術」と、それを関係府省間で連携させる「統合型G空間防災・減災システム」の社会実装を防災サイクルの各段階において推進。



②地球観測衛星による気候変動等の地球規模課題解決への貢献

- ・温室効果ガス観測技術衛星、気候変動観測衛星、水循環変動観測衛星等により、地球規模で環境変化を捉え、その利活用を促進。
- ・広範囲・高精度の観測が可能な温室効果ガス・水循環観測技術衛星(GOSAT-GW)の打ち上げを行い、取組を強化。



産業・経済の活性化

③スマート農業の加速化などデジタル技術の利活用の推進

- ・農業機械の自動走行やドローン・人工衛星からのセンシングデータ等を活用したスマート農業の現場実装を加速化。
- ・農地台帳等の情報と衛星画像・作物情報等を統合した「農林水産省地理情報共通管理システム(eMAFF地図)」を開発、運用し、農地関連業務等の効率化・省力化を実現。



位置情報を利用したトラクターの自動走行

④i-Constructionの推進による3次元データの利活用の促進

- ・インフラ分野のDXを加速化させる一環として、調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までの全ての建設生産プロセスでICT等を活用するi-Constructionを推進。



i-Construction

⑤衛星データ利活用促進事業

- ・様々な衛星データを国が調達して政府衛星データプラットフォーム「Tellus」に搭載し、社会課題解決のための衛星データを利用したビジネスの実証支援を実施。

豊かな暮らしの実現

⑥自動運転システムの開発・普及の促進

- ・一般道における運転支援(レベル2)及び高速道路における自動運転(レベル3)を実現するための自動運転のデータ基盤の拡充及びデータ配信システムを構築
- ・車両等から収集したデータの連携・利活用の仕組みを検討。



自動運転システム

⑦「空間ID」を含む3次元空間情報基盤の整備

- ・ドローン等の高度な運行等を可能にするため、実空間の位置情報を統一的な基準で一意的に特定する「3次元空間ID(空間ID)」を含めたデジタルインフラの整備について検討。



3D都市モデルの整備・活用

⑧3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクト

「PLATEAU」

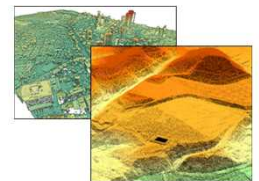
- ・まちづくりのDXを進めるため、3D都市モデルを新たなデジタルインフラとして整備・オープンデータ化し、これを活用した多様な分野におけるユースケースを開発。

地理空間情報基盤の継続的な整備・充実

⑨高精度測位時代に不可欠な位置情報の共通基盤

「国家座標」の推進

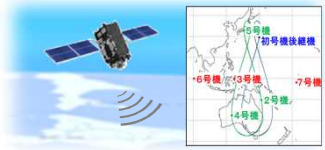
- ・衛星測位による高精度な位置情報が利活用可能となるよう、電子基準点網の適切な運用、地殻変動補正の仕組みの精度向上、新たな標高基準の整備等により、信頼性の高い位置情報の流通を推進。
- ・デジタルツインの実現に不可欠な3次元地図の作成基盤となる基準類や3次元点群データの整備を推進。



3次元点群データのイメージ

⑩準天頂衛星システムの開発・整備及び測位能力向上の推進

- ・位置情報と時刻情報を提供する重要な社会基盤である準天頂衛星システムについて、持続測位が可能な7機体制確立を目指すとともに、サービスの提供を着実に実施。



準天頂衛星システム